

公立大学法人秋田県立大学教員募集要項

1. 職名及び人員 准教授または助教 1名
2. 所属 総合科学教育研究センター
3. 専門分野 心理学（教育心理学に関する活字業績があることが望ましい。）
4. 担当授業科目 「心理学」「教育心理学」等
5. 応募資格 (1) 修士以上の学位を有し研究上の業績を有すること。
(2) 当該分野（含教職課程）の教育と研究及び地域貢献に熱意・意欲を持っていること。
(3) 国籍は問わないが、日本語が堪能であること。
(4) 採用が決定した場合、確実に着任できること。
6. 採用予定日 令和5年4月1日
7. 勤務条件等 (1) 身分 公立大学法人職員
(2) 給与 職位・業績・職務内容に応じた年俸制（本学給与規程による。）
(3) 勤務 裁量労働制
(4) 任期 5年の任期制（再任回数に制限なし。）
※博士の学位を有しない者は、3年以内の任期制（再任回数に制限なし）となります。
(5) 定年 67歳
8. 応募書類 (1) 履歴書（本学所定の様式1による。*）
(2) 研究業績書（本学所定の様式2による。*） 准教授は主要なもの5編、助教は3編に○を付けてください。
(3) 主要論文（著書を含む、コピー可） 准教授への応募は5編、助教への応募は3編
(4) これまでの教育、研究及び社会活動（地域貢献を含む）の概要（1000字程度）
(5) 教育に対する抱負（1000字程度）
(6) 研究・地域貢献に対する抱負（1000字程度）
(7) 応募者について意見を求めることができる推薦者2名の氏名と連絡先
(8) 科研費等外部資金獲得の実績がある場合は、過去5年間における獲得状況の一覧
注）*印：履歴書（様式1）及び研究業績書（様式2）については、
ホームページ（<https://www.akita-pu.ac.jp/about/saiyo/>）をご参照ください。
9. 応募締め切り 令和4年11月15日（火）必着
10. 選考方法 (1) 第一次選考 提出書類審査、当センター選考委員会による面接
(2) 第二次選考 プレゼンテーション、役員による面接
※第一次選考及び第二次選考の面接はオンラインで実施する場合があります。
※対面にて面接を実施する場合の旅費等は自己負担となります。
11. 応募書類の提出先及び問い合わせ先
〒010-0195 秋田市下新城野字街道端西 241-438
秋田県立大学総合科学教育研究センター 教員選考委員長 高橋秀晴
TEL：018-872-1551（ダイヤル）、E-mail：takahashi_hideharu@akita-pu.ac.jp
※封筒の表に「総合科学教育研究センター教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付してください。応募書類は返却しません。
12. その他 本学は、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

（次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく公立大学法人秋田県立大学一般事業主行動計画：

https://www.akita-pu.ac.jp/up/files/www/about/houjin/keikaku/20210317_koudou02.pdf）

今回の公募で求める人材像
(総合科学教育研究センター)

1. 教育について

本学は、「時代の変化に対応できる問題解決能力と、自ら能力を磨くことができる基礎的能力を兼ね備えた人材の育成」、「現代の科学技術の幅広い要請に応えられるよう、問題発見能力と解決能力を兼ね備えた、研究者・技術者および教育者の育成を目指す教育」を教育目標としています。そして、教養教育を担当する本センターは、問題発見・解決能力やコミュニケーション能力を涵養する上で心理学の学修が大きな役割を果たすと考えています。

一方、本センターは教職課程を担う部局でもあるため、教員採用試験における「教職教養」の試験や集団面接・模擬授業等への対応の点から、教育心理学に関わる活字業績を有する方を望みます。業績がない場合は、文部科学省による教職課程認可の関係で、着任後に当該分野の業績を作っていただきます。

以上から、本公募では、汎用能力との関係性を考慮しつつ心理学を教授でき、併せて教育心理学を教授する意志のある人材を求めます。

2. 研究について

本センターでは、「教育を重視する研究大学」という本学の運営方針のもと、各教員がそれぞれの専門分野において大きな研究成果を上げています。本公募でも、積極的に外部の競争的資金を獲得し、査読論文を執筆して、自身の研究を発展させてゆくことのできる人材を求めます。

3. 地域貢献について

本学は県立大学という特性上、行政機関とのつながりが強く、本センターも教員の多くが地域貢献として各種講演会・講習会等の講師、各種委員会・審議会等の委員を務めています。本公募による新任教員に対しても、専門性を背景にしつつそうした活動に積極的に取り組んでいただけることを期待します。

本学は、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

総合科学教育研究センターの構成

2022.8 現在

本センターは、専門分野を異にする研究者の集合体であり、「人間科学研究グループ」と「英語研究グループ」の二つのグループで構成されている。本センターの理念は、グローバルな視点と地域の持続的発展に寄与するローカルな視点とを併せ持ち、科学技術の進展等の諸変化にも自律的に対応し得る「統合された知」の基盤を涵養することである。

人間科学研究グループ8名（教授3名、准教授4名、助教1名）

- 秋田県の近代文学を対象とした風土と文化との関係性についての研究（文学）
- 高齢者の意思決定は若い人とどこが違うのかということについての研究（心理学）
- 知識や文化（ものの見方や考え方）の働き、その人間と社会との関わりについての研究（社会学）
- ヒトの姿勢制御メカニズムを明らかにして高齢者の転倒予防に貢献するための研究（体育学）
- 一般相対論や流体力学における運動方程式の数理的側面の研究（物理学）
- 「自己理解」の方法、「仕事理解」の方法についての研究（キャリア教育学）
- 資質・能力を育む学習過程を重視したカリキュラム開発に関する研究（学校教育学）
- セーレン・キェルケゴールの生と思想を手がかりとした人間の生き方についての研究（哲学・倫理学）

英語研究グループ7名（教授2名、准教授2名、助教3名）

- 学習内容を中心とした英語教授法についての研究（英語教育学）
- 英語リスニング、リーディングに関する e-learning 教材の開発研究（英語教育学）
- 19世紀の日本と英国における貧困問題を文学・文化面から比較する研究（比較文学）
- エリザベス朝演劇についての研究（英文学）
- コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチングによる学習者中心の授業と学習環境デザインの研究（英語教育学）
- 白鳳時代の仏教美術の研究（比較文化学）
- 20世紀の英文学における演劇理論と東西の舞踊との関連性についての研究（英文学）